

法人	社会福祉法人光朔会 オリンピア	報告者	常務理事 山口 幸
基本方針			
イエス・キリストによって示された愛を、すべての人々とともに分かち合い、神の栄光をあらわすために、誰もが夢や希望に満ちあふれ、「その人らしく」光輝いて暮らすことができる社会を実現する。			
運営方針			
1. 総合的な福祉活動の展開 2. 新しいケアへの転換 3. 福祉の啓発活動の展開 4. 地域、他団体との協力 5. キリスト教主義の福祉活動の展開 6. リーダーシップの確保と向上 7. 海外との交流 8. 健全な財政運営			
概要			
法人設立より29年目となる2023年度は、社会福祉法人光朔会オリンピアにとって、新たな一步を踏み出す年である。新型コロナウイルス感染症の流行や、政治・経済状況の変化など、福祉を取り巻く環境が日々様変わりする中で、ニーズに応じた事業展開・サービス提供をすることが求められている。そのためにも、柔軟な発想力と大胆な行動力を兼ね備え、オリンピアの理念の実践に貢献することができる人材を安定的に確保し、その育成に注力していきたい。 また、我々の取り組みを多くの方に伝えるため、インターネットや新聞・雑誌等のメディアを活用したPR活動も積極的に行う。さらに、海外に目を向ければ、アジアの国々も急激な少子高齢化の道を歩み始めており、これまでの日本の経験やオリンピアの取り組みを伝えることにより、オリンピアの目指す「誰もがその人らしく輝いて暮らすことのできる社会づくり」に貢献をしていく。このように目まぐるしい変化を続ける社会状況に対応する為にも、常に新しいアイデアをアクションに移していくことで、新たな福祉のムーブメントを起こしていきたい。平坦な道のりではないが、常に初心を忘れることなく、新しいことにチャレンジし続けることができるオリンピアを目指す、新たな1年としたい。			
事業計画			
1. 総合的な福祉活動の展開 [多機能] : 高齢者事業部門・保育事業部門・社会事業部門・法人本部の働きを一層充実させ、オリンピアの目指す「小規模・多機能・地域密着」の総合的な福祉活動をさらに前進させる。			
2. 新しいケアへの転換 [小規模] : 従来の大規模・画一的なケアではなく、入居者・利用者・園児ひとりひとりがその人らしく輝くことができるように、家庭的な環境の中で小規模・個別的な新しいケアを実践する。			
3. 福祉の啓発活動の展開 [地域密着] : オリンピア福祉塾講座、高齢者と介護者の教室、認知症高齢者や発達障害児の理解を深めるための講演会を開催、あるいは講師として参加することにより、地域福祉の啓発に貢献する。			
4. 地域、他団体との協力 [ネットワーク構築・国際交流] : 日本聖公会・YMCA・各大学や大学院・ロータリークラブ行政・社会福祉協議会・医師会・自治会などとの協力関係を強化し、よりよい福祉活動につなげる。			
5. キリスト教主義の福祉活動の展開 [キリスト教社会福祉] : 各部門における毎朝の礼拝、職員礼拝の充実を図るとともに、クリスマス・イースター・ペンテコステなどのキリスト教行事を積極的に実施し、キリスト教の理解を深める。			
6. リーダーシップの確保と向上 [資質の向上] : 内部研修の実施および外部研修の受講より、職員・ボランティアの資質の向上に努める。また、実習生を積極的に受け入れることにより、次世代の福祉の担い手を育成する。			
7. 海外との交流 [国際活動] : リンネ大学(スウェーデン)との協働により、海外研修を実施する。また、香港・台湾・ベトナム・シンガポール・カナダ・ドイツなど諸外国との連携を密にし、世界の福祉の情勢の分析および情報発信を行う。			
8. 健全な財政運営 [健全財政] : 収入の増加、支出の見直しを実施し、健全な財政運営に努める。			

施設	特別養護老人ホームオリンピア	報告者	施設長 西川 晃
事業目標	1. .オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 人材確保及び育成 4. 地域ニーズに応えられる施設を目指す		
概要			
今年度は、挑戦の年にしていく。前年度、入所部門では通年4回のワクチン接種後にクラスターが発生してしまった。感染対策を徹底しつつも、クラスターの発生を止められなかった。一方、通所部門では平均利用者数が1日30名以上の月もあった。世間全体でコロナが第5類に緩和され、福祉を取り巻く状況も激変する中、これまでの取り組みを振り返り、検証しつつ、確固たるものにし、新たな一歩を踏み出していく。新たな一歩として、デイサービスの営業日を1日、土曜日を開設し、収益を改善する。事業としては、今までと同様、理念に基づいた「その人らしい」暮らしの実現の一助を担うべく、人材の育成・確保は勿論のこと、その仕組み作りにも注力する。地域と共に歩み、成長していくことが出来る、人々の希望となるノーマライゼーション社会の実現へのチャレンジに取り組んでいきたい。			
事業計画			
1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供：入居者・利用者の皆様の「その人らしい生活」を大切に、「今日1日、オリンピアで過ごせて本当に良かった」と思って頂けるような生活の支援を行っていく。理念と3つの約束を守り、ビジョンを持ち、日常生活の情報収集を行い、お一人お一人に誠実に向き合っていく。各々のニーズや課題を把握し介護する側とされる側ではなく、幾つになっても明日に向かって一緒にチャレンジ出来るように、寄り添える関係性を大切にする。ケアプランを軸として、他職種連携の体制を整え、声に出ない隠れたニーズを見落とすことなく、入居されている皆様の生活の質を高めていく。そして、一緒に沢山の小さなチャレンジを継続していくことによって、スタッフも幸せになれるような、「自己選択」「自主性」が発揮出来るような取り組みを大切にしていく。 2. 財政基盤の確立：入居者・利用者の皆様の満足度を高め、質の高いサービスを提供するためには、安定した財政基盤の確立が必要です。2023年度の予算数値の達成、目標の利用率を達成することが経営基盤の強化、地域資源の活用に繋がり、地域の高齢者の総合相談支援の拠点としての位置付けを担える理想と考えます。具体的には特別養護老人ホームで年間98%の稼働率を維持する事による収益の安定、昨年度、コロナ渦でも、徐々に登録者数が回復したデイサービスの更なる飛躍を目指していく。土曜日を開設し、他の曜日同様、年内に平均利用者数が25名以上を目指す。スケールメリットを生かし、併設の居宅介護支援事業所、あんしんすこセンターからの紹介、体験利用等、在宅支援の一部を担っていく形を継続していく。財政基盤の確立へ、予算執行に関して、適切な管理と運営が出来るよう、人員配置や費用支出を資金計画に沿って効率的に行う。不必要な支出や業務の効率化を図っていき、無駄や重複事項を削減し、生産性を高めることに力を注いでいきます。 3. 人材を確保及び育成：今年度は「残存機能を活かせるチャレンジ企画」を大切にします。常に質の高いサービスを提供させて頂く為に、職員が切磋琢磨出来る環境、昇級出来る環境、自分磨きのための資格取得であったり、チャレンジ出来る研修制度の整備、それをサポート出来る環境作りに努める。オンライン研修だけでなく、講師を招いての自主学習チームを創設し、‘高齢になってもいつまでも輝ける’をテーマに施設を生活の場、暮らしの場として、日常生活の活性化を目指します。コロナ禍だからこそ、出来ることを創造していく場に変えていく。 4. 地域ニーズに応えられる施設を目指す：横の繋がりを活かした、地域と共に歩める施設、地域の拠点となる施設、地域ケアを一旦を担える施設を目指し、神戸の街の一社会資源として必要とされる運営を目指す。			

事業計画

2023年度

施設	オリンピア	部門	特別養護老人ホーム	報告者	谷口 裕亮
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 健全な施設運営 4. 専門性の高い人材確保と人材育成				
事業計画					
1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:入所者、短期利用者様、お一人おひとりが望む生活を送って頂けるよう、誰もがその人らしく暮らしていく生活に合わせた適切なサービス計画を作成する。また、ご利用者様が楽しみにされている季節の行事や日々のレクリエーションを充実していく事で豊かな施設生活を送って頂く。 2. 財政基盤の確立:安定した収益を確保する為、特養入居者の定員50名を確保し安定した収益の確保を図る。そのためには、入退所業務を速やかに行い、空きがない状況を確実に維持していく体制を取ると共に、入居者の心身の状況を常に把握し入院者等にて空き室ができないよう工夫していく。短期入所については、定員が16名となり特養入所者の受け皿として自宅介護が限界になっている方を積極的に受け入れて、高い利用率を目指す。 3. 健全な施設運営・4. 専門性の高い人材育成・確保:健全な施設運営を行うには、老人福祉法、介護保険法の法令根拠に基づきスタッフの指導や研修を積極的に行っていく。スタッフの一人ひとりが法人理念や、3つの約束に基づいたケアを実行できる人材になれるよう支援を行う。人材の確保についてはEPAを継続すると共に、介護・社福などの学校との交流を増やし専門性の高い人材を確保する。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2023年度

施設	オリンピア	部門	デイサービス	報告者	金谷 佐織
事業目標	1. 利用日の追加、土曜日の営業と安定した利用者数の確保を目指す 2. 質の高いサービス提供に努める 3. 人材の確保・育成				
事業計画					
1. 利用日の追加、土曜日の営業と安定した利用者数の確保を目指す:昨年度は当初予算より、115%以上の増収に加え、1日平均利用者数30名を超える月もあり、土曜日営業のご要望を頂いている。当センター開設以来初の試みとして土曜日を営業する。利用者様の新たなニーズに応えると共に、収益の安定を図っていく。各機関との更なる連携を図り、利用者お一人おひとりのニーズに応えられるよう創意工夫をし、土曜日単体で年内に平均利用者数25名以上を目指し、全体では昨年度の当初予算より127%増の74,000(千円)を目指していく。					
2. 質の高いサービス提供に努める:オリンピアの理念に沿ったその人らしさを大切に、きめ細かいサービス提供を軸に、利用者だけでなく家族からのケアの相談、看護師への健康相談等を受け、生活継続の支援にも努める。					
3. 人材の確保・育成:人材育成の為の人材確保、そして新人職員を育てる環境の見直しをはかり、長期で働けるように新しい方法も取り入れ、更なる向上を目指す。それぞれがオリンピアの目指すケアを理解し、実践に移せるように職員同士の介護の仕方の理解や統一、情報の共有を行い、お互いの成長に努める。現在行っている、各教室の外部講師とも連携をとり、利用者の希望が幅広く叶い、付加価値の高いデイサービスを目指す。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2023年度

施設	オリンピア	部門	居宅介護支援事業所	報告者	渡邊 千恵
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 質の高い居宅介護支援 3. 地域、他事業所との連携 4. 介護支援専門員の資質向上				
事業計画					
1. 財政基盤の確立:要介護者プラン件数年間960件、要支援者プラン件数年間215件を目標とする。あんしんすこやかセンターや今まで関わってきた利用者家族からの紹介など、新規利用者を獲得する事で収入の増加を図る。					
2. 質の高い居宅介護支援:住み慣れた地域で在宅での生活が安全に継続できるよう支援し、見守る。主任介護支援専門員に相談できる環境を確保し、介護保険外のサービスも組み入れ、その人らしく暮らす事ができるよう支援する。また、利用者の自立支援の観点に立った支援が行えるようにする。					
3. 地域、他事業所との連携:地域で開催される行事、研修会などに積極的に参加し、他事業所との連携を図る。連携を図る事でオリンピアを知って貰い、地域に貢献できるようにする。					
4. 介護支援専門員の資質向上:研修の種類(参集型、オンラインでの研修など)にこだわらず、積極的に研修に参加する事で学ぶ機会を確保する。また、虐待防止や対人援助など事業所内で情報を共有し、学び続ける事ができるようにする。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2023年度

施設	オリンピア	部門	地域包括	報告者	太田 直樹
事業目標	1. 高齢者と地域の社会資源をつなげ、高齢になっても安心して住むことのできる地域づくりを支援する 2. 高齢者やその家族から信頼され安心して相談ができる窓口として、広く認知される				
事業計画					
1. 圏域内各種事業所の他、民児協や自治会、老人会、婦人会、ふれあいのまちづくり協議会等と協働して、 高齢者見守り活動を推進し、高齢者介護や支援に関する情報を提供し、地域ネットワークの構築をさらに進める。					
2. 地域ケア会議を開催し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、高齢者に関する地域の 困りごと等の解決方法を関係者間で話し合い、地域包括ケアシステムのネットワーク構築に寄与する。					
3. 認知症の人にやさしいまちづくり条例に関連して、認知症サポーター養成講座の開催や認知症サポーター店 の新規開拓、声かけ訓練の実施等を通じて、認知症理解や認知症支援の担い手が増えるように働きかける。					
4. 虐待防止や後見人制度等、高齢者の権利擁護、特殊詐欺に対する防犯についての啓発をする。					
5. フレイル予防に関する啓発活動やプログラム活動を支援する。					
6. 災害時の要援護者支援に関して、地域支援者と協力・連携して課題への取り組みを進める。					
7. 人と人とを結ぶ仲介者としての役割が遂行できるよう、コミュニケーション能力や情報収集能力、対人支援 技能およびその他資格習得のための研修を受講する。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック呉	部門	居宅介護支援事業所	報告者	栗田 実
事業目標	1. 事業の経営安定				
	2. 地域づくりへの貢献				
事業計画					
1. 2019年の事業再開より4年が経過した。現在、要介護者26名、要支援者47名の支援をしている。昨年6月に非常勤のケアマネジャーを採用し、年間を通し各地域包括支援センターを通じコンスタントに介護相談を受けるようになり、徐々に利用者数も増えて来ている。今後も介護相談・サービス調整中の方も継続して見込まれており、4月からはアソシエイトにて主任ケアマネジャーの雇用も決まり、成長を続けている。他の事業所では対応困難な事例を「オリンピックなら」と紹介頂く事も多い。2023年度も引き続き、成長を続けて行ける様にしていく。 2. 引き続き、事業所の所在地である中央地域や西部・東端部地域等市内全般から幅広く利用者を受け入れ、活動をしている。今後は職員体制の強化等もあり、今まで以上に広範囲に活動が可能になる。職員の体制も主任ケアマネや社会福祉士等の資格を有する職員や地域で長年活動をしているベテランケアマネを複数抱える事業所となり、地域への更なる貢献が求められる。行政や各地域包括支援センターとも協力し、地域貢献ができる様努めたい。また、呉信愛教会も新たに松本司祭が赴任予定で1年間の無牧状態から脱する事となる。引き続き、教会との良好な関係を継続し。教会とともに地域に開かれた事業所として認められる様努めていきたい。					

施設	グループホーム　オリンピア灘	報告者	管理者 長谷 順二
事業目標	1. 利用者の生活の質の向上　2. 認知症ケアの拠点としての地域交流　3. 職員の資質向上 4. 財政基盤の確立		
概要			
オリンピア灘は、21年目を迎えることとなった。これまで培ってきた地域密着事業として、認知症ケアの拠点としての活動を、より一層大きなものへとしていく重要な一年となる。地域に根ざした、パーソンセンタードケアを基盤としたケアを実践していき、ご入居者のみなさまが主人公である生活を実現していただく。長く続いているコロナ禍が新しい局面を迎えようとしているが、安心した生活が送れるように、職員一人ひとりが計画立てられた研修、学びを行う。共用型デイサービスとグループホームの連係は、収入面だけでなく、デイサービスのご利用からグループホームへのご入居という事例が続いており、より一体となった共用体制が整えられている。チャレンジを忘れず、光朔会オリンピアの理念が実現されていく生活の場として推進していく。			
事業計画			
1. 利用者の生活の質の向上:生活の主人公は利用者ご本人であるために、毎日をその人らしく充実した生活を送れるようにお手伝いをさせていただく。そのため、スタッフ一人ひとりが「オリンピアの理念」「オリンピアの3つの約束」を根拠としたノーマライゼーションの実現を行う。ご入居のみなさまを、ただ介護される人としてではなく、自己決定、自己実現を行い、お一人ごとの尊厳ある生活をされる人として、パーソンセンタードケアを基盤とした寄り添ったケアでお手伝いさせていただく。ご本人、ご家族と共に作り上げたケアプランを軸として、ご入居者のみなさまがチャレンジを続けていけるように支援をさせていただく。			
2. 認知症ケアの拠点としての地域交流:ご入居者のみなさまが地域に根ざした生活をしていただくためにも、地域住民、社会資源と協力し、オリンピア灘も地域の一員として活動をしていく。認知症でお困りの方へ、窓口を開いていき相談、支援を行わせていただく。あんしんすこやかセンターやえがおの窓口と連係し、孤立している高齢者への助けとなれるように、認知症ケアの拠点としての活動に努める。地域の商店から食材等を仕入れており、情報共有を同時に行うこと。認知症講演会の企画、実現を行い、相談を待つだけでなく発信に努めていく。地域とオリンピア灘の関係を深めていくことに全力を尽くす。			
3. 人材の育成:法人で創設された人材育成プロジェクトに積極的に参加し、職員のレベルアップを目指す。これからの時代に適応していくためには、介護だけを学ぶのではなく、介護をより適切に幅広い視野で行える人材としての成長が必須であると考え。理事長研修、法定研修の受講。ユニットリーダー育成研修、認知症実践者研修など、法人内外の研修に対して、スタッフ個々の力量に応じた学びを推進していく。また、スタッフ個々の処遇を高めていくためにも、資格習得を推進、支援していく。			
4. 財政基盤の確立:前年度、高い利用率を維持することができ、収入が安定していることから収支のバランスが高く安定した予算達成を実現できた。課題となった支出面、特に突発的に起きる支出に対して、より根拠を持った積算を行い、予算組みを行う。コロナ禍が長く続いているが、感染予防の分岐点を迎えている。今後、医療、福祉施設での感染予防はより困難になることが予想される。その時代にあった、必要な感染予防対策を行いご入居が安心した生活を送れることで、収入も維持していけるように努めていく。共用型デイサービスをグループホームの入居待機として十分に活用し、本体が一年を通して安定した運営を行うものとする。			

事業計画

2023年度

施設	オリンピア灘	部門	グループホーム	報告者	長谷 順二
事業目標	1. 入居者が主人公となる生活の構築 2. 職員のスキルアップと育成 3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動 4. 財政基盤の確立				
事業計画					
1. 入居者が主人公となる生活の構築:「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念を実践していく。コロナ禍であっても、パーソンセンタードケアを基盤とした、ご入居者のこれまで通りの生活、趣味や日課を支援させていただく。ご入居者いただいたからこそできるチャレンジを実現していく、その人らしい生活を支援させていただく。					
2. 職員のスキルアップと育成:法人内外の研修に対して、スタッフ個々の力量に応じた研修を受講していき、職員のレベルアップを目指し、時代にあった人材育成に努める。日々の介護だけではなく、IT化、緊急時対応など今の時代に求められていることに適応していく骨太な体制を構築していく。					
3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動:コロナ禍が続く中ではあるが、利用相談、施設見学、ご家族のご入居者への関わり方など、年々できることが増えている。地域でお困り、孤立している高齢者のみなさまへ、より支援の手が届くための一年としたい。そのため、地域と一体となった活動を目指していく。					
4. 財政基盤の確立:まず収入を安定させ、年間予算の達成を目指す。適切な支出を行いながら、職員雇用、研修などの前向きな支出を確保し、維持ではなく前進に繋がる体制を整えていく。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2023年度

施設	オリンピア灘	部門	デイサービス	報告者	長谷 順二
事業目標	1. サービスの質の向上 2. 財政基盤の確立				
事業計画					
1. サービスの質の向上:グループホームの共用型デイサービスとして、グループホームとの関係、共用を最大限に発揮していくことに努める。グループホームの施設見学時に、共用型デイサービスを説明させていただき、利用へと繋がるケースが続いている。デイサービスとして通い、利用していただくことで、同時にグループホームでの生活を体験していただき、グループホームご入居者との関係も築き、顔馴染みとなっていただく。この関係から、グループホームへのご入居となった際に安心した入居が実現できている。また、認知症対応型デイサービスとして、規模の大きなデイサービスでの利用が困難な方への支援にも力を入れていく。ご本人、ご家族、ケアマネジャーとの関係を強化して、お一人おひとりのご利用、活動の仕方を模索していく。 2. 財政基盤の確立:コロナ禍における感染予防の観点から、ご利用の新規受け入れに悩みがあった時期もあるが、適切に対応をとることができつつあり、利用枠いっぱいのご利用を維持しつつある。デイ単体での予算達成を実現しつつ、デイサービスから本体であるグループホームへのご入居に力を入れて、グループホームとの一体となった収益の確保を行うこととする。人材育成をグループホームと関係していき、成長を目指していく。					

社会福祉法人光朔会

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア兵庫	報告者	館長 山口 宰
事業目標	1. 「小規模多機能ケア」の確立 2. 広報活動の強化 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
概要			
Afterコロナ時代を迎えた今、2023年度はオリンピア兵庫が今後の方向性を定める重要な年度となる。 これまでの取り組みをふり返り、検証し、土台を確固たるものにした上で、新たな一歩を踏み出すことが求められる。 そのため、「利用者ひとりひとりの"その人らしい"暮らしのために」という設立の理念にもう一度立ち返り、ケアのあり方、組織のあり方を徹底的に見直していく。スタッフひとりひとりの能力に頼るだけではなく、長期的に効率的、安定的な組織運営ができるように、人材育成およびシステムづくりに注力する。また、積極的な地域交流や地域に開かれたイベントを行うことにより、オリンピアのアクションが人と人とを繋ぎ、地域を動かしていくことができるようにする。固定観念にとらわれることなく、常に新しいことへのチャレンジを続け、日本の福祉をリードする立場であり続けたい。			
事業計画			
1. 「小規模多機能ケア」の確立：利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中で、長期に渡って質の高いケアを提供することによって、「その人らしい」暮らしを住み慣れた地域で送ることを可能にすることが、小規模多機能ケアの本質である。オリンピア兵庫は、小規模多機能型施設のパイオニアとして、「小規模多機能ケア」本来のあり方を追究する。具体的には、グループホーム・ショートステイ・デイサービスの連携を強化することにより、複数サービス利用者の増加に繋げるほか、それぞれのユニットがビジョンを持ち、切磋琢磨しながら、より高い質のケアの実践に取り組む。 2. 広報活動の強化：「オリンピア兵庫」の認知度を向上させ、各サービス利用者を確保するため、広報・PR活動を強化する。具体的には、インターネット媒体・新聞・雑誌・テレビ等各種メディアに対して積極的に情報発信を行うほか、地域団体との関係強化にも取り組む。また、スタッフひとりひとりが積極的に外部の組織に参加し人的ネットワークを拡げることにより、オリンピアの取り組みをより多くの人に浸透させる。さらに、Salon de l'Olympiaなどのイベント、Cafe Olympiaを活用することによって地域に開かれた施設づくりを行うほか、ボランティアや実習生、見学者などを積極的に受け入れることにより、地域への啓発活動にも努める。 3. 財政基盤の確立：安定した施設運営を行うために、財政基盤を確立する。時代状況の変化、制度改正などに際しても安定した収入が確保できるように、徹底的な情報収集と迅速な対応を行うとともに、新たな収入源の可能性についても検討する。また、徹底したコストの見直しを定期的に実施することにより、効率的な運営を目指す。 4. 新規プロジェクトへの挑戦：地域の声に常に耳を傾け、いまオリンピア兵庫の力が必要とされているニーズに対して、積極的に新しいプロジェクトを立ち上げていく。プロジェクトメンバーには若手の人材から思い切った登用を行い、将来のステップへの備えとする。 5. 人材の育成：オリンピアの目指す新しいケアのあり方に従来のマニュアル的対応は通用しない。自ら考え、判断し、適切な行動を取ることができる人材、そのスタッフを育てる人材が必要である。そこで、スタッフひとりひとりの現在の状態、課題を的確に把握するとともに、それぞれのステップに応じた研修を積極的に実施する。また、仕事の場以外でも自分を磨き成長させることができるようなチャンスを提供する。特に、ユニットリーダー以上のポジションのスタッフには、自分の後継者を複数育成することを課し、継続できる組織づくりを行う。			

事業計画

2023年度

施設	オリンピア兵庫	部門	グループホーム	報告者	西塚 裕真
事業目標	1. ケア理念の遵守 2. 健全な財政運営を行う 3. 地域に密着した運営を行う 4. スタッフの資質向上を目指す				
事業計画					
1. ケア理念の遵守: ユニット毎のビジョンを明確にし、2ユニットそれぞれの質の向上を目指し、環境を整え、高め あう。“生活の主人公はご利用者本人”と言うことを常に意識し、パーソンセンタードケアの実践を行う。ご利用者 の「今できる事」に目を向け、ご本人の力を最大限に発揮していただけるお手伝いをする。 2. 健全な財政運営を行う: 年間利用率98%を目指し収入増加、支出の見直しを行い、健全な財政運営を図る。 3. 地域に密着した運営を行う昨年にBe supportersへの参加をきっかけとし、ヴィッセル神戸との接点ができた。 2023年度はこの新たな繋がりを橋掛けとして、地域の交流、つながりを広げ、地域に根付いた運営を目指す。 4. スタッフの資質向上を目指す: オリンピアにふさわしい正職員の獲得を目指すと共に、オリンピアにふさわしい スタッフの育成、指導を行う。ケアのみならず、マナー、接遇に対しても学ぶ機会を持ち、内部、外部に対しても 気持ちの良い環境をつくる。内、外部の研修を充実させ資格取得者を増やし、スタッフ一人ひとりのスキルや 指導力の向上を目指す。また、正しい分析、検討を行い、年間の離職率の低下、職場定着率の向上を図る。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2023年度

施設	オリンピア兵庫	部門	ショートステイ	報告者	仲原 広樹
事業目標	1. ショートステイとしてコロナ禍における役割を担う 2. 法人内の中継地点としての機能を果たす 3. 人材確保と育成を図る				
事業計画					
1. ショートステイとしてコロナ禍における役割を担う: コロナ禍において心配されている高齢者施設におけるクラスター感染や日々の様々な場面において影響を及ぼしている新型コロナウイルス。いつも通っている施設にコロナ陽性者や濃厚接触者などが発生した場合、介護と仕事を両立される方の職場内での感染リスクといった色々な場面で介護に不安をもたらしている。そういった万が一の場合でも全室個室であるという利点を活かした受け入れやケアの実施が必要とされることが想定される。介護でお困りの家庭の救いとなるよう柔軟な対応を行う。 2. 法人内の中継地点としての機能を果たす: 法人内の施設には多くの入所希望の方々がおられ、その中には在宅での生活が困難で早急な入所を要する方々もおられる。そういった不安に対して入所までの期間を安心して待つことが出来る場所として、また、入所の際はスムーズに事が運ぶよう中継地点としての役割を全うする。 3. 人材確保と育成を図る: 先ずは内部研修の充実化を図り、それにより介護の基礎を学ぶ、次に外部研修の参加を促し、成長の場を提供する。これからの介護職員としての目標にビギナークラスは初任者・実践者研修の受講。スタンダードクラスには介護福祉士取得といった資格取得に際してのフォローが出来る体制、環境作りを図る。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2023年度

施設	オリンピア兵庫	部門	デイサービス	報告者	清田 忠弘
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域との密着 3. 人材募集育成の強化 4. 新たな保険外事業への挑戦				
事業計画					
1. 2023年度収入予算の達成へ向けた利用者確保:区役所が主催する地域ケアネット活動を通じて地域ケア会議のメンバーとして活動を行う。					
本体事業を補強するための保険外事業を積極的に受入、実施する。					
2. 地域との密着:地域密着型として運営推進会議等を通じて、地域の介護拠点としての地位を確立する。					
3. 人材募集育成の強化:法人内外他事業所への派遣研修を通して知識、ケアのさらなる向上を目指す。					
研修、実習生の受入を通して、自己研鑽を行う。					
4. 保険外事業への挑戦:初任者研修、体験等実習等の経験を活かした保険外事業への挑戦を続ける。					
人材育成とも連携した形で新たな事業に活かせるものとする。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2023年度

施設	オリンピア兵庫	部門	ホームヘルプ	報告者	中村 文香
事業目標	1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践 2. 他部門との連携強化 3. ヘルパーの養成 4. 保険外サービスの具体化				
事業計画					
1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践：ヘルパーによる支援がただの家事労働の延長ではなく、家事援助を通じた生活密着型の支援であり、それによってご利用者はその日常生活を回復し、みずからの生活イメージを取り戻して、自らの生活設計に取り組むことを可能にするようなケアを目指す。					
2. 他部門との連携強化：ヘルパーによる支援は「関係性」の中で展開される。同じ施設内のサービスを使って頂くことで、情報共有もスムーズになり、顔を合わせる機会も増えるため、安心してサービスを受けて頂くことが可能になる。居宅系サービスの3部門が協力し、兵庫全体で総合的なサービス提供を行う事で、ご利用者により安心して、サービスを利用していただく。					
3. ヘルパーの養成：定期的に実践レベルでの研修を実施し、現場でのケア・サービスの質の向上をはかる。また、所属するヘルパー一人ひとりの特性を活かし、より専門性の高いケアを提供出来る体制を整える。					
4. 保険外サービスの具体化：介護報酬に頼らない収入源の確保とともに、"オリンピアにしかできない"ケア・サービスの提供を行っていく。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア兵庫	部門	居宅介護支援事業所	報告者	園田 明
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域、他事業所との連携強化 3. ケアマネジャーとしての資質向上 4. 新規利用者の獲得 5. 利用者、家族の尊重				
事業計画					
1. 財政基盤の確立:2023年度の収支差額でのプラスを達成し、法人の財政基盤の確立に貢献する。					
2. 地域、他事業所との連携強化:地域住民、関係機関、病院、あんしんすこやかセンター、他のサービス事業所との関係づくりを常に行い、利用者が自宅での暮らしを安全に継続していけるように努力する。地域資源の発掘と活用に取り組み、利用者の生活の質を向上できるようにする。多職種連携を意識し、支援を実施する。					
3. ケアマネジャーとしての資質向上:外部、内部を問わずに研修会、勉強会へ積極的に参加して、ケアマネジャーとしての資質向上に努める。介護保険制度の情報も意識して収集を行っていく。					
4. 新規利用者の獲得:要介護、要支援の利用者を積極的に受け入れる。担当が可能な件数を維持して、より多くの方に居宅介護支援を提供し、地域社会に貢献する。					
5. 利用者、家族の尊重:利用者、家族の希望する生活が維持できるよう、毎月実施するモニタリングによって適切なサービスを導入する。利用者一人一人のニーズに合わせ、利用者、家族との相談を実施して柔軟な対応を行っていくようにする。					

施設	幼保連携型認定こども園　オリンピア都こども園	報告者	園長　三好　美佐子
事業目標	1. オリンピア・都こども園の理念、理解の徹底　2. 心身共に安心できる環境作り　3. 地域子育て支援の充実 4. 専門職としての資質向上　5. 関係団体との連携　6. 人材の定着と確保　7. 次世代育成		
概要			
新型コロナウイルス感染症の流行から3年が過ぎ、対応方法、環境整備などすべての職員が理解し柔軟に実施できるようになった。安心・安全の上に子どもたちの興味や関心を引き出す工夫がなされ、充実したあそびや生活の場となっている。昨年度は「不適切な保育」という心痛む報道があり、改めて子どもの人権について考える機会となった。一人ひとりの子どもがその子らしく、家庭と同じようにくつろいでのびのびと過ごせるように関わるとともに、見える部分だけではなく、目に見えない子どもたちの心の動きを感じ、寄り添える専門職としての資質向上に励み続けたい。2023年度も子ども・保護者・地域の方々にとっての良きパートナーとなり、質の高い教育・保育を展開していきたい。			
事業計画			
1. オリンピア・都こども園の理念、理解の徹底：一人ひとりの子どもが安心して生活やあそびの場で自分を表現できるように支援していく。子どもへの関わり、子どもの成長を保護者や地域の子育て世帯に発信し、オリンピアの理念を広く理解していただけるようにする。			
2. 心身共に安心できる環境作り：コロナ禍での保育を3年経て、安心・安全な環境作り、感染症への対応は十分にできていると感じる。子どもの心身の成長の上で、子どもに寄り添い、共感し、一人ひとりに応じた環境、関わり大切さを認識し、子どもの主体的な活動を促していきたい。			
3. 地域子育て支援の充実：2022年度は一時保育利用数は若干の回復傾向にある。市内全域で保育の受け皿が広がったことにより、一時保育利用の意味合いが変化している。様々な理由に対応できるようにしていくことと、親子プログラムの内容、回数を見直しをおこない、地域子育て支援の充実を図りたい。			
4. 専門職としての資質向上：「不適切な保育」の報道に心を痛める。適切な保育は当たり前のことであり、保育をおこなう最低ラインである。改めて一人ひとりを大切にする、認める、すべて受け入れることに注力し、全職員で子どもの人権について学び、理解し、実践していきたい。			
5. 関係団体との連携：聖公会保育連盟、キリスト教保育連盟、神戸市私立保育園連盟等の研修や事業に積極的に参加、参画する。キャリアアップ研修は見通しをもって受講し、リーダーの役割・自覚を促したい。地域にある園として地域の皆さまのご理解・ご協力に感謝し、常に誠実に明るく関わらせていただく。			
6. 人材の定着と確保：経験年数に応じ、意欲と希望をもって働ける職場環境を構築する。リーダー、チーフの育成・支援に注力する。保育、栄養士の養成校と密に連携し、実習生をていねいに受け入れる。その後のオリンピアへの入職につなげられるようにしていきたい。			
7. 次世代育成：小学校との接続スタートアップカリキュラムから地域中学校のトライやるウィーク、中高生のワークキャンプ、ボランティアを積極的に受け入れ、「子どもってかわいい」「子どもに関わる仕事って楽しい」と感じてもらえるようにしていきたい。			

社会福祉法人光朔会

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア神戸西	報告者	施設長 櫻井 敬介
事業目標	1. 総合的な福祉活動の展開 2. 財政基盤の確立 3. 小規模多機能ケアの確立 4. 人材確保と育成(研修)		
概要			
オリンピア神戸西は開設より14年目を迎える。新型コロナウイルス感染症の影響により大きく変化した社会や生活様式のなかで感染予防を徹底しながら利用者様、入居者様、スタッフの健康と生活を守っていく。この混迷した時代の中でもオリンピアの理念に基づいたノーマライゼーション社会の実現、「その人らしく」光輝いて暮らすことができる社会の実現を目指し、地域における福祉の拠点となるよう運営を行っていく。光朔会オリンピアとしての事業展開・サービス提供に取り組む為、また、新たなチャレンジをおこなう為にも収支の安定、利用者・待機者の確保、人材の確保・育成に力を注いでいく。今後も地域に必要とされる施設であり続けるとともに、利用者・入居者の皆様だけでなく、オリンピア神戸西に携わるすべての人が輝ける施設を目指す。			
事業計画			
1. 総合的な福祉活動の展開: 特別養護老人ホームの入所部門、小規模多機能ホームの通所部門、居宅介護支援事業所の在宅部門の3部門が協力し、ケアを必要とされる方に必要なサービスを提供させていただく。専門職が地域に出向き、地域住民との料理教室、自治会との防災訓練、介護相談、健康相談等といった地域との協同作業を行うことで、地域に根付き、開かれた高齢者総合福祉施設としての意義をより一層深めていく。 2. 財政基盤の確立: 居宅介護支援での新規利用者獲得、特養・多機能の稼働率95%以上の維持を図り、保険収入の安定化を目指す。居宅・小規模多機能・特養の各部門が協力しあい連携を取ることで収入予算を達成し、財政基盤の確立を図る。支出に関しても、内容を精査し、無駄な支出をなくし、収支の安定を図る。 3. 小規模多機能ケアの確立: 利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中での在宅生活の継続を支援していく。各部門が連携をとり、おひとりおひとりのその時々ニーズにマッチしたサービスを提供させて頂くことで、いつまでも「その人らしく」輝ける暮らしを支援していく。地域密着型ならではの施設と地域の垣根を超えた交流をケアに反映し、総合福祉施設として利用者、入居者皆様のニーズに対応できるよう軽やかに、きめ細やかに画一的ではない個別ケアを実践する。誰もが輝き、希望を見出せる取り組みへの挑戦を継続して行い、その経験を積み重ねていくことで、ケアの充実、進化を図る。 4. 人材確保と育成(研修): 今年度は神戸西全体で2名の採用を目指す。可能な限り実習生・研修生の受け入れを行い、且つ、各種学校にアプローチを行い、新卒採用に繋げていく。スタッフ皆が斬新なアイデアを出し合い、実践することで職員採用に繋げていく。スタッフ育成に関しては、オリンピアの理念のもと、他者を理解し、受け入れ、尊重できる人材の育成を目指す。お互いを認め合い、会話を重ねることで信頼関係を築き職員同士で学びあい、成長しあえるチームを作る。そのような環境を作り出すことで人材の離職率低下、定着率向上を図り、ひいてはケアの質の向上、利用者様・入居者様の満足度向上に繋げていく。また、研修計画を作成し、それに則って、スタッフそれぞれのレベルにあった研修を受講できるシステムを構築する。施設内での勉強会を開催することで、自己研鑽を図り、自身の成長に繋げ、スタッフ間で教えあい学びあうことで切磋琢磨し、介護職としてだけでなく人としても成長できるようにする。リーダー以上のスタッフは自部門の数年先をイメージして、自身の後継者候補の採用、育成をおこない未来へつながる組織運営を行う。			

事業計画

2023年度

施設	オリンピア神戸西	部門	小規模多機能ホーム	報告者	平山 陽三
事業目標	1. その人らしい暮らしの実現 2. 財政基盤の確立 3. スタッフの確保と資質向上 4. 地域の拠点作り				
事業計画					
1. その人らしい暮らしの実現：ノーマライゼーションの理念に則り、一日の利用定員の範囲内で、少しでも多くの方を受け入れる。通い、泊まりのサービスだけでなく、訪問サービスにも力を入れ、利用者に合わせて支援し、自宅での生活の継続に努める。ご本人の要望だけでなく、ご家族の希望も取り入れ、安全安心な暮らしができるよう、スタッフはチーム一丸となって関わっていく。 2. 財政基盤の確立：収入目標79,199千円。法令遵守の上で、登録者数を29名確保し、安定した収入の確保を目指す。各種加算の算定対象となるように、スタッフの確保、継続勤務に繋がる体制作りを行う。 3. スタッフの確保と資質向上：リーダーを含め、資格要件を満たした人員を十分に確保する（年間2名採用予定）。研修計画に基づき、内部・外部研修を通して、ケアの標準化及びスタッフの資質向上を目指す。神戸市主催の認知症研修や毎月行われる多機能連絡会主催の研修等に参加する。 4. 地域の拠点作り：地域の行事にスタッフだけでなく利用者も参加し、繋がりを深めていく。衛生管理を徹底した上で、多くの地域の方々が訪れることができる拠点を目指し、開かれた相談窓口として地域に貢献していく。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2023年度

施設	オリンピア神戸西	部門	特別養護老人ホーム	報告者	横山 佳史
事業目標	1. 入居者主体の支援 2. 財政基盤の確立 3. 人材確保と育成(研修) 4. コロナ禍での地域との関り				
事業計画					
1. 入居者主体の支援:オリンピアの理念を遵守し、入居者目線でひとりひとりのその人らしい生活を送ることが できる支援を行う。また、入居者、スタッフと馴染みの関係を構築し、入居者の些細な変化に気付くことができ 「暮らしの継続」をサポートしていく。 2. 財政基盤の確率:年間稼働率99%を目標に、安定した収入を得られるよう努める。空床が発生した際は、ショ ートステイ利用者確保を迅速に対応を行う。また、新規入居申込者の確保も尽力し、健全な運営を目指す。 3. 人材確保と育成(研修):常勤1名の確保。既存スタッフの教育を行いリーダーになりうる人材を育成する事に 尽力する。スタッフ全員が暮らしをサポートしていく介護の専門職として自らの介護観や価値観をスタッフ間で共 有しお互いに成長できる環境作りを行う。また、個々の能力、関心に応じた研修を受講し、資質向上を目指す。 4. コロナ禍での地域との関り:コロナ禍であるが、地域に開かれた施設として感染対策を講じた上で社会資源と 連携をとり、より充実した福祉施設になるよう努める。また、感染予防を徹底し地域活動に参加し、コロナ感染に 細心の注意を払いながら交流を深め地域の相談窓口となれるよう貢献していく。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア明石	部門	居宅介護支援事業所	報告者	富松 晃子
事業目標	1. 地域の相談窓口としての役割を担う		2. 在宅支援を他事業所と連携して行う		
	3. 財政の安定		4. 人材確保と育成(研修)		
事業計画					
1. 地域の相談窓口としての役割を担う :コロナ禍で地域交流の場が減少しているが、地域住民の相談に迅速に対応しその人らしい生活が送れるよう質の高い支援を行う。(主に神戸市西区・明石市)					
2. 在宅支援を他事業所と連携して行う:住み慣れた地域での生活が継続できるよう、圏域の地域包括支援センターをはじめ、介護・医療・福祉の関係機関や民生委員等との連携を図りながら支援していく。					
3. 財政の安定:業務内容を充実させ、新規利用者を獲得する事とプラン件数の維持を目指し、財政基盤の確保に努める。(月平均目標件数:要支援26件 要介護42件)					
4. 人材確保と育成(研修):今年度退職者ゼロを目標とする。事業所内の研修会を実施(不満や苦情への迅速・適切な対応、感染症対策、自然災害対応等、倫理、困難事例の共有、マニュアルなどの見直し等)することで職員の意識向上を図る。また施設外の研修会に参加することで、個人のスキルアップと他事業所との交流の機会を持つ。職員間での研修会で情報共有する事で事業所全体の資質の向上を図り、利用者に寄り添ったケアマネジメントが実施出来るように努める。					

施設	都児童館	報告者	館長 森下 洋子
事業目標	1. 児童の健全育成 2. 子育てと家庭の支援 3. 放課後児童の健全育成(放課後児童クラブ) 4. 地域への貢献 5. 職員の資質の向上(研修への積極的参加) 6. 安全管理の徹底		
概要			
オリンピアの理念を軸として利用者ひとりひとりの居場所となる場を提供し、児童館の担う役割をしっかりと果たしていく。親子プログラムを通して、母親の居場所づくりと仲間づくりの拠点となるよう配慮し、継続利用に繋がるようにする。放課後児童クラブにおいては、児童館と六甲学童保育コーナーそれぞれの環境的特性を活かしていく。 また、個々の特性を尊重し、学童という集団生活の中で社会性を培うことができるよう子どもたちを見守っていく。 新たな発想で楽しく、安心して参加できるプログラムを提供する。保護者との信頼関係をどの職員も構築できるようにする。どのような状況下にあっても地域との連携を大切にしていく。そして、職員全体の根本的意識向上を図る。利用者、職員が安心して過ごせるように安全管理を徹底して行っていく。			
事業計画			
1. 児童の健全育成:遊びや行事を通して異年齢児や地域の方との交流を図り、その中で集団モラルを学べるように支援する。安全を第一に、子どもたちの居場所づくりとして、積極的に職員が遊びに関わり個別的・集団的に支援していく。また、「生きる力」が育つようにひとりひとりを尊重した見守りをしていく。交流行事、季節行事、月行事等、その時々状況に合わせ、安全に配慮し、工夫した中で楽しさを提供する。 2. 子育てと家庭の支援:子育て支援、母親の居場所づくり、仲間づくりの拠点となるよう下記の事業を実施する。 *すこやかクラブ*なかよしひろば(赤ちゃんタイム・一歳児タイム・ママ向けのプログラム等) *子育てコミュニティ育成事業 3. 放課後児童の健全育成(放課後児童クラブ:学童):家庭的な雰囲気の中で集団生活の規律を守り、ひとりひとりが協力・寛容・自立ということを理解できるよう支援し、児童の健全な育成を図る。また、色々な場面で想像力を働かせることができる(行動に伴う結果予測)ようにし、安全を図る。合同お誕生日会や合同お楽しみ会、児童館行事等への参加を通して、子どもの心と体の健康を図る。自主的活動として子どもたちが考えたいくつかのクラブを発足し、その中で新たなつながり、楽しみを見出せるようにする。長時間学童で過ごす子どもたち一人ひとりの心のよりどころとなる支援に加え、保護者が安心できるように配慮していく。 4. 地域への貢献:地域の方の活動に積極的に参加し、お互いの理解を深めると共に、子育て支援、家庭支援に繋がる地域社会を目指し、異世代間で楽しめるプログラム(コミュニティ事業)を年間を通して実施する。 5. 職員の資質の向上(研修への積極的参加と市内及び灘区児童館合同行事への参加):オリンピアの理念を軸に利用者に対して個を尊重した対応をし、自ら責任ある行動をする。各種実施される研修と合同行事に参加し、職員の資質の向上を図り、自信に繋がるよう配慮し、更なる成長を促す。 また、放課後児童支援員認定研修の受講資格が満たされた職員は必ず受講する。 6. 安全管理:感染症予防対策、防犯・防災対策等日頃より周知徹底を図り、利用者及び職員の安全を確保できるようにする。			

施設	障害事業	報告者	センター長 細田 尚誉
事業目標	1. ご利用者様の獲得 2. 人材の確保と育成 3. 地域連携と啓発活動 4. 障害事業部門の連携構築 5. 健全な運営収支		
概要			
2023年度は障害事業部門12年目年となり、社会福祉法人光朔会オリンピア法人30周年に向けて大事な一年である。就労継続支援B型事業所3か所、共同生活援助、生活介護の計5事業所の連帯したサービス提供環境の構築と運営はコロナ禍の影響がいまだ続く状況中、障害福祉サービスの利用を求めているニーズに対して明確な事業内容を展開することで『ご利用者様の持てる力を最大限に引き出す』支援を大切に新しい展開を行いたい。また光朔会オリンピアの理念を継続的に守る為にも、人材育成において若い世代の獲得に対する取り組みや地域の活動や事業に積極的な交流、参加をして常に光朔会オリンピアの活動を発信する姿勢をとっていく。 部門内においての連携が未熟であったとしても、新しいことに挑戦し続ける行動を取り続ける年度としたい。			
事業計画			
1. ご利用者様の獲得：各事業所においての定員割れを無くす。 特別支援学校への訪問や関連事業所との連携を強化し、実習の受け入れや体験の受け入れに柔軟な対応をとる。 ご家族様に対するサービス受給への相談対応も行い、安心できるサービス提供環境を構築する。 関連事業所との連携強化や特別支援学校との関係強化を図り、継続的な障害福祉サービスの支援活動の向上に取り組む。 2. 人材の確保と育成：光朔会オリンピアの理念に基づく支援を継続的に行う人材を獲得するために、関連教育機関への営業活動と実習の受け入れを行い、若い世代の人材獲得に注力していく。現在の支援の在り方は個別支援計画に沿った対応だけでは通用することが難しく、臨機応変に判断し対応する必要性も多いことから研修や講習を積極的に参加できる体制と各々と定期的な面談を行いステップアップできるように関係性を築いていく。遣り甲斐と喜びのある組織づくりを図り、将来に向けた人材の育成に取り組んでいく。 3. 地域連携と啓発活動：コロナ禍の影響がいまだある中、イベントの再開や地域における年間行事が行われるようになり、積極的に参加し社会交流の機会をご利用者様ともども展開していく。今まで築き上げた繋がりが希薄になりつつある状況もあり、改めて光朔会オリンピアの障害事業の取り組みに関して周知して頂けるように活動する。継続して地場産業との連携に注力し、光朔会オリンピアの活動がモデルケースとなることを目指し積極的に取り組む。ご利用者様には活動目的や社会交流に対しての意識を高める社会参画の機会を目的に取り組んでいく。普段のご利用者様の生活環境である場所で、ノーマライゼーションのもと地域の発展に貢献出来るように努める。 4. 障害事業部門の連携構築：各事業所単位でのご利用者様への関りは部門内での共有が出来ていない点があり他施設へのご利用者様の流出に繋がっている。早急に部門内での情報の共有を徹底することでサービスの向上と継続的な地域の包括サービスの一端を担うことに繋がり、地域におけるネットワークの中心となれる組織としていく。人材の適材適所における連携も行い、人員の配置の上での体制強化も同時に進める。 5. 健全な運営収支：就労支援事業所における作業収益、各拠点でのイベント収益など年間における計画作成の明確化や現在の社会状況からの材料費や光熱費の高騰に対する見直しの徹底を行う。 ご利用者様への支援費の確保に向けた財政の内容に対する管理もより厳しい観点から努めていく。			

事業計画

2023年度

施設	オリンピア岩屋	部門	就労継続支援B型	報告者	福田 新
事業目標	1. 利用者様の平日平均人数20名の確保 2. 支援による利用者様の出勤数の確保 3. 作業収益の増収				
事業計画					
1. 利用者様の平日平均人数20名の確保:2022年度の平日平均人数が15名の為、定員割れにより収益に対して大きな影響を及ぼした。2023年度は電話対応だけでなく、訪問なども行い支援学校、区役所、各相談機関にアプローチしていく。また実習生、見学の受け入れを継続して行っていく。(次年度新規利用者様は実習生) 2. 支援による利用者様の出勤数の確保:現在登録利用者数が21名(定員20名)だが平日平均が15名。週2回勤務の方が1名、不定期の方が4名、突然休みが続く方が1名在籍している。 上記の方を支援により、出勤できる状態を形成していき、出勤数を増やしていく。(各相談機関、区役所とも連携)利用者様にとって、居場所になり出勤したいと思える施設を作っていく。(環境整備、支援員のコミュニケーション) 3. 作業収益の増収:現在は受託作業(軽作業等)、菓子製造、清掃・整地作業を主に取り組んでいる。 繁忙期を過ぎると、作業が少なくなることがあるので、定期的に行える作業を確保していく。 また菓子製造作業では、現在の菓子製造メンバーだけでなく(現在5名)いろいろな利用者様に挑戦して頂いて、作業の幅を広げていき、販路拡大に対応できるようにしていく。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2023年度

施設	オリンピア住吉	部門	就労継続支援B型	報告者	久保 弘子
事業目標	1. 利用者延べ数の確保 2. 自主製品の新規販路開拓及び啓発活動 3. 作業収益の増収				
事業計画					
1. 利用者延べ数の確保:精神的に不安定なご利用者の在宅での支援と電話でフォローし、社会との繋がりが途絶えない様に支援を続け、少しずつ通所に繋げる。また支援学校からの実習生を積極的に受け入れ、定員20名を維持できるように、支援学校や支援センター等との情報交換や連携をし、新規獲得に繋げて行く。 2. 自主製品の新規販路開拓及び啓発活動:コロナ禍も治まりつつあり、販売会の再開で自主製品の売り上げも伸びる傾向にあり、今後は更なる収益を目指し、地域活動の一環として、新規取引先である企業様のCSR事業の取り組みとの関わりを深め、販路の拡大をして、障がい福祉への啓発活動にも取り組む。 3. 作業収益の増収:地域での清掃活動や、特例子会社からの作業受注量も作業の上達に伴い、多岐にわたる作業の受注を可能にすることにより、幅広い作業内容にすることで、如何なる障がいのあるご利用者様でも問題なく作業ができ、平等に提供できるようにする。その結果として、作業の受注も増加して、作業収益の増収に結び付ける。また法人内での印刷作業も継続し、新しい冊子の発行を提案するなど印刷作業の増加も出来るようにする。更に外部からの新規の印刷作業の受注にも力を入れる。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2023年度

施設	オリンピック長峰	部門	共同生活援助	報告者	高下 千賀
事業目標	1. 満床とサテライトの活用 2. 人材の育成と確保 3. 障害部門内での連携による情報共有 4. 年間行事の充実、地域のイベント参加などによる余暇支援の向上				
事業計画					
1. 満床とサテライトの活用：2月に1名の退所があり現状1室が空室のため満床を早急に目指す。体験・見学希望者を募集中（現時点2名予約有）。引き続き各関係機関へこまめな営業活動を続行する。サテライトへの転居希望のご利用者様1名について夏頃までの開始を目標とする。新しいGH展開の基盤になるよう土台固めの年にする 2. 人材の育成と確保：現時点スタッフは充足しているが、長期的に支援の向上を図り継続するために若いスタッフの確保と育成が必要。シフト面も効率の良い配置を再検討する。スタッフの知識向上を図り支援の充実の為にも資格の取得や研修の受講を促し支援力の向上を目指す。働く喜びを感じる職場環境づくりにも力を入れる。 3. 障害部門内での連携による情報共有：ご利用者様の獲得を軸に同法人内でのご利用者様の支援情報の共有によりタイムリーなフォローを目指す。部門内の支援のレパトリーを増やすために施設の空き時間の活用を提案することで有効利用を目指す。引き続き部門内でのご利用者様ご家族へアプローチし、見学希望者も獲得していく。 4. 年間行事の充実、地域のイベント参加などによる支援の向上：今までの恒例の季節の行事やイベントなどでコロナ禍でも今年は開催できそうな支援プログラムを企画し積極的に外出や余暇支援を増やしていく。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2023年度

施設	オリンピック住吉東	部門	生活介護	報告者	福田 新
事業目標	1. 利用者様の定員人数20名の確保 2. 支援による利用者様の出勤数の確保 3. 月間、年間予定の設定 4. 提供サービスの充実 5. 部門内連携強化				
事業計画					
1. 利用者様の定員人数20名の確保: 2022年度は全ての月で定員割れを起こし、収益に対しても大きな影響を及ぼしていた。2023年度は電話対応だけでなく、訪問なども行って支援学校、区役所、各相談機関にアプローチをかけていく。また実習生、見学者の受け入れを継続して行っていき、新規契約の獲得につなげる。 2. 支援による利用者様の出勤数の確保: 現在登録利用者数12名(定員20名)、毎日来られている方が3名。不定期の方の支援を強化し、出勤できる状態を形成していく。(各相談機関、区役所とも連携) 3. 月間、年間予定の設定: 月間、年間のイベントなどを設定し、他施設との差別化を計り、住吉東のカラーを出していく。各関係機関にアプローチして特徴を伝え活動の発信を行っていく。(各相談機関、区役所とも連携) 4. 提供サービスの充実: 事業所内にない施設を部門内施設で補ったり送迎への取り組みをする事で、入浴介助や送迎サービス提供のできる事業所へと環境の向上を図ります。 5. 部門内連携強化: 部門内のご利用者様にとって幅の広いサービスが提供できるように、ご利用サービスの変更などがスムーズに出来るようにご利用者様の情報を共通認識できる連携を行う。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア相生	部門	就労継続支援B型	報告者	細田尚誉
事業目標	1. オリンピアの活動の発信 2. ご利用者様の獲得 3. 将来の人材育成 4. 菓子製造作業の展開 5. サービス提供環境の整備				
事業計画					
1. オリンピアの活動の発信:地域の基幹センターと連携を強化して、光朔会オリンピアとしての活動を周知する。 神戸市と異なる環境から県に対しての活動報告など、相生市における主要施設となることを目的として取り組む。					
2. ご利用者様の獲得:定員割れを無くすため関連事業所との連携強化を継続した上で、特別支援学校への 実習受け入れやイベント参加など関係を強化し継続的な受け入れ態勢を構築する。					
3. 将来的人材育成:光朔会オリンピアとして継続的にサービスを提供するために、新卒採用の強化をする。 学校関係への訪問や現場実習の受け入れ、将来に向けた人材の獲得に取り組んでいく。					
4. 菓子製造作業の展開:現在の調理パン、シフォンケーキ以外の商品の開発とご利用者様へのサービスとしての 展開を進める。 地域イベントの再開に向けて、新規の販路開拓や関連事業所販売などに取り組む。					
5. サービス提供環境の整備:施設環境の老朽化と施設内配置の変更を行い、ご利用者様の受け入れ環境を 向上する事で、定員最大まで対応できる事業所とします。 障害の種類による、対応制限のないサービス提供に 繋げることを優先として助成金などの活用も含め改善する。					

施設	オリンピア鶴甲 サービス付き高齢者向け住宅	報告者	施設長 前埜 久男
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 各種講演会やイベント開催 4. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す 5. 人材確保と育成の強化		
概要			
サービス付き高齢者向け住宅の入居条件としては60歳以上の方で非該当の方から要介護・認知症の方等、これまで自宅で不安を抱えて生活を送って来られた方々に対して、生活の質はこれまで通りのライフスタイルを続けて頂き、入居者様が不安な部分に対しては24時間の見守りや状況把握、生活支援サービス及び食事や家事等の支援により、その人らしい生活を送って頂く。外出同行サービスや趣味等の活動に参加して頂き、豊心した暮らしを提供する。訪問介護事業所・通所介護事業所を併設し、オリンピアで培った質の高いサービスを住宅部門は基より地域の方々へも提供していく。コロナ禍で地域との交流を図ることが難しい状況だが、地域での知名度・評判のアップを目指す。			
事業計画			
1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:これまで自宅で送って来られた生活と変わらないライフスタイルを継続していける様に入居者様お一人おひとりに寄り添ったサービスを提供し、「その人らしい」暮らしのお手伝いをする。すべての入居者様に「鶴甲を選んで良かった」と思ってもらえる様に安心出来る生活環境を提供する。 2. 財政基盤の確立:入居者様の「安心してこれまで通りの暮らしを続けたい」というご要望に応えるためには、活動の基となる財政基盤を安定させることが必要不可欠であり、常時20室満室の状態を維持していく必要がある。常時入居者様に生活して頂ける状態を維持していくために、入退去の状況を見極めていき、退去者が出た場合でも速やかに新しい方が入居出来る様、入居希望の待機者獲得に努める。収支の状況も的確に把握していき、収入と支出のバランスを取っていくことで、コストを意識し収益の確保を目指す。 3. 各種講演会やイベント開催:各種講演会やイベント開催を定期的に行い、近隣地域の方へ様々な情報を鶴甲から発信することで、入居希望の待機者及びデイサービス・ヘルパー利用者の獲得に繋げる。 4. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す:快適な生活環境を整え、入居者様に安心して生活を送って頂くために、日常の生活は基より、定期点検にも細心の注意を配る必要がある。また、安全への配慮・対策として平素から火災発生の防止に万全を期し、防災関係設備・機器の整備点検を十分に行い、年2回の避難防災訓練を実施し、消防署・地域の協力を得て利用者の方の安全対策に努める。非常災害時においても最大限に入居者様の安全を図るとともに、地域の防災拠点としての役割を担っていく。 5. 人材確保と育成の強化:現在従事しているスタッフが入居者様に寄り添って信頼して頂ける様に育成に力を注ぐ。また、欠員が出そうな時は即座に新たな人材確保に動き、必要人員数をキープして業務に支障のない体制を維持する。			

事業計画

2023年度

施設	オリンピア鶴甲	部門	サ高住	報告者	前埜 久男
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立				
	3. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す 4. 人材確保と育成の強化				
事業計画					
1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:これまで自宅で送って来られた生活と変わらない生活様式を継続していける様に入居者様お一人おひとりに寄り添ったサービスを提供し、「その人らしい」暮らしを支援する。入居者様に「鶴甲を選んで良かった」と思ってもらえる様、安心出来る生活環境を提供していく。					
2. 財政基盤の確立:利用者の皆様に「安心してこれまでの暮らしを続けていきたい」というご要望に応えるためには、活動の基となる財政基盤を安定させることが必要不可欠であり、常時20室満室の状態を維持していく必要がある。入退居の状況を見極めていき、退居者がした場合でも速やかに新しい方が入居出来る様、入居待機者の獲得に努める。収支の状況も的確に把握し、収益の確保を目指し、自費サービスにも対応していく。					
3. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す:快適な生活環境を整え、日常の生活は基より、定期点検にも細心の注意を配り、危険箇所等が無い様に建物の維持管理を行っていく。					
4. 人材確保と育成の強化:現在従事しているスタッフが入居者様に寄り添って信頼して頂ける様に育成に力を注ぐ。また、欠員が出そうな時は即座に新たな人材確保に動き、現在の員数11名以上をキープする。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2023年度

施設	オリンピア鶴甲	部門	ヘルパーステーション	報告者	渡部 倫成
事業目標	1. オリンピアとしてのケア追及 2. 人材確保・育成				
	3. 財政基盤の確立 4. 広報活動の強化				
事業計画					
1. オリンピアとしてのケア追及:利用者様目線で利用者様の声なき声を認識し、パーソンセンタードケアを実践していき、その人らしい尊厳を持った暮らしを続けられるようにケアを実践する。					
オリンピア鶴甲のヘルパーに頼めば安心、何とかしてくれるの声を大切にし期待に応える。					
2. 人材確保・育成:現在12名のスタッフをキープしつつ、今後サービスの増加に向け1人でも多く増員していくことを目指す。更なるニーズに応えていくことや仕事のマンネリ化による離職を防ぐため自部門だけでなく、他部門と交流する機会を作り、新たな学びによる成長意欲・モチベーションの向上を図りたい。					
3. 財政基盤の確立:人材を確保したうえで、利用者様のご要望やコール対応に柔軟に答えることで、自費などの対応を増加させる。いろいろな介護経験者の意見を取り入れながらケアの質の向上を図り、対応の幅を広げるとともにヘルパー自身の技能レベルアップを図り高品質なケアを実施する。					
4. 広報活動の強化:地域や医療介護連絡会に出席し病院の地域連携室や居宅会議事業所にオリンピア鶴甲のファンを増加させるようPRをする。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア鶴甲	部門	デイサービス	報告者	下地 正樹
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上 3. 人材の確保・育成				
事業計画					
1. 財政基盤の確立:利用者数を上限数にすることを目標として、あんしんすこやかセンター、居宅介護支援事業所の情報発信を続け、新規利用者獲得に繋げる。好評である音楽療法や食事イベントを継続して行っていき、少しでも多くのアピール方法をチームで考案し考動することで収益を上げていく。					
2. サービスの質の向上:スタッフひとりひとりがオリンピアの理念をしっかり理解及び把握し、それに基づきご利用者のニーズにお応えできる体制を整えていく。パーソンセンタードケアの実践。					
3. 人材の確保・育成:利用者様に寄り添った、ご利用者が望まれるであろうことをスタッフ全員が考えれるスタッフを目指す。出来ない事をより出来る事を考えて考動するスタッフへの成長を促す。トライやるウィークで来られた学生の問い合わせにも丁寧に対応し採用に繋げ、現状の9名以上を目指す。					

施設	グループホームオリンピア篠原	報告者	管理者 上野 鋭一郎
事業目標	1.「認知症ケア」の確立 2. 地域密着の浸透 3. 人材の育成 4. 財政基盤の確立		
概要			
オリンピア篠原は2015年に開所し9年目を迎える。今までの取り組みを見つめ直し、更なる一步を踏み出す年とする。「認知症ケアの拠点」「地域交流の場」として、地域に根ざしてきたが、更なる「情報発信の拠点」となれるよう力強く推進する1年とする。コロナ禍において「withコロナ」「afterコロナ」が求められるが、住み慣れた地域で継続的に生活し続けるため、地域に出て行き、地域の方々を迎える相互交流を再開していく。 地域社会から必要とされる存在で有り続けることで、ノーマライゼーションを実現していく拠点となる。 スタッフには必要とされる研修だけではなく、自発的な研修参加を促し、全スタッフが受講し、個々のスキルアップを図っていく。安定した人材の確保、安心して働ける環境作りを目指す。			
事業計画			
1.「認知症ケア」の確立:「オリンピアの理念」「3つの約束」をケアの礎とし、パーソンセンタードケアを基本とした根拠あるケアを実践する。スタッフ一人ひとりが認知症ケアを実践していくと同時に、指導していくことが出来るスタッフの育成を目標とする。今年度もオリンピアの認知症ケア、個別ケアを理解し、実践していくことで、地域の認知症ケア、高齢者ケアの拠点となる。 2. 地域密着の浸透:コロナ禍において「コロナとの共生」を模索し、地域との交流の機会を再び増やしていく。 リモート開催の行事や催しにも積極的に参加し、地域の祭り等行事が再開されつつあるので積極的に参加していく。また、町内会、自治会活動にも積極的に参加し、地域の一員として、協働していく。入居の相談、高齢者介護や認知症ケアの相談窓口として、地域の交流の場として気軽に来て頂けるように解放し、地域の中で最期まで安心して暮らして頂けるよう、お手伝いさせて頂く。 3. 人材の育成:介護現場において人材の確保が急務となっている。定期的に広報を行うと共に、将来を見越して実習生、研修生の受け入れ、中学・高校生の介護体験の受け入れ等を積極的に行う。正職、パート職に関わらず全職員が、それぞれの経験、スキル、希望に応じて意欲的に取り組むシステムを作る。職員は各自が課題を抽出し、研修計画を立て、法人内外関わらず、年1回以上は研修に参加し、レベルアップを図っていく。また、中堅職員は、新人職員の育成を行うOJTの教育係を行いつつ、自分自身のスキルを見直す機会とする。また、ユニットリーダー以上は次のリーダー候補を育成するための準備を日々行っていく。 4. 財政基盤の確立:安定した収入の確保を目指す。年々変わる介護保険制度、物価上昇に伴う経済状況等きっちりと理解し、徹底的に情報収集し、迅速に対処していく。また、適正な支出で運営することが重要であることには変わりはない。収入に関しては1年トータルで考えて、高い平均稼働率のキープを目指す。入退院、退居による空室は毎年起こりうることで有り、空室期間をいかに最小限にするかが課題となる。新入居者に早く入って頂くため、待機者を常時複数名確保する。日々の入居者、入居待機者の状況の把握に努めていく。 また、保険外の事業として、入居者様の希望や夢の実現のため体制を整え「これまで通りの生活のお手伝いをさせていただく。」と言う理念に沿った取り組みを感染対策を徹底した上で、数多く実現していく。目的をしっかりと持った保険外プログラムの実現により、入居者様の満足度向上と収入の安定に繋げていく。			